



日野学園だより

40

品川区立小中一貫校 日野学園

校長 青木 経

ホームページアドレス <http://www1.cts.ne.jp/~hinogaku/>

平成21年10月2日

平成21年度の振り返り地点

校長 青木 経

早いもので、平成21年度の教育活動も振り返り地点を迎える季節となりました。新型インフルエンザの影響で4年生1クラス、7年生2クラス、8年生1クラスが学級閉鎖となりましたが、現在は小康を保っております。インフルエンザ情報は、素早く保護者の皆様にもご提供し、情報の共有化を図ることが最強の防御策と思っております。学校では今後も十分に子どもたちの健康状態を把握しながら対応してまいります。引き続き各ご家庭のご協力をお願いいたします。

さて、9月24日(木)に大井埠頭の陸上競技場でおこなわれました品川区立中学校連合体育大会では、どの選手も本校代表としての自覚と責任を果たしてくれました。ほとんどの競技種目で入賞者が続出し、競技後半の学年別リレーではメダルを独占し本校始まって以来の好成績でした。10月17、18日の駒沢公園陸上競技場で開催される東京都の大会には、日野学園から20名の生徒が代表選手団の一員に選出されました。10月1日には、品川区団結式がおこなわれましたが、品川区の代表として大いに力を発揮して欲しいと思います。

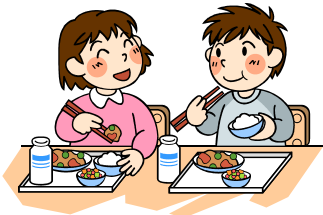
10月は、大きな行事が立て込んでいます。10月10日(土)の1年生から4年生の運動会では「心を合わせて、勝利を目指せ、宝物がまたひとつ」を標語として今週から「根っこの時間」を活用して全体練習に励んでいます。昨年度から一貫校として特色ある行事づくりの一つとしてあえて分離型の運動会を実施しています。これは、一貫校として4年生がリーダーとしての役割を自覚させる機会とすると共に、多くの出番と役割を与えることによって、子どもたちの活躍する場を設定するためです。また、本年度発足した金管バンドが入場行進等で演奏することになっています。4・5年生を中心に32名の部員が、5月当初から毎日7時30分からの朝練習でようやく形が整ってきました。発足にあたりましてはPTAのご支援で、楽器を購入していただきましたが、その成果をご覧いただければと存じます。さらに、一貫校ならではの工夫として5年～7年ブロックのリーダーである7年生がボランティアとして参加します。一般的には先生方がおこなう補助を7年生がその役割を果たすことになっていますので、運動会にご来校の際は温かいお言葉をかけていただければと存じます。

10月17日の土曜登校日には、来年度新1年・7年対象者の学校説明会を開催いたします。昨年度までは、品川区全小学校6年生対象の中学校体験授業を実施していましたが、本年度からは連携小学校との活動を重視する内容に変えております。当日は、見学を希望する6年生児童も説明会に出席できるようにしましたので、是非多くの方に、本校のよさを実感していただけるよう努めたいと思っています。

以上のような行事以外にも10月はたくさんの行事が予定されています。これらの行事を通して心と体の成長が図られ一段とたくましくなっていくと思いますが、同時に着実に学習に励む環境づくりをこの1ヶ月で作ります。平成21年度の振り返り地点として、各学年から残りの6ヶ月で達成すべき課題と、具体的な教科別の取り組みを提示します。また、本校の課題である家庭学習の定着に向けて、全校体制で家庭学習のルール作りを検討しています。すでに5年生では「50分学習定着計画」として家庭学習のやり方の指導や定期的な放課後補習講座の実施を、来年1月までの計画として示すと共に、家庭学習ルール作りを各ご家庭にお願いしています。

振り返り地点からの新たな目標設定によって、子どもたちの学校生活に活気と意欲を引き出し「自学自習」の態度を育成するきっかけとなるよう取り組む所存です。

子どもたちの



健康と体

30年前と比べ子どもたちの体が大きくなった一方、体力・運動能力が低下しているとのことが、東京都のある調査結果にありました。そこには、東京都の子どもたちの体力は低下傾向にあり、「積極的に運動する子ども」と「ほとんど運動をしない子ども」の体力差が、年齢と共に拡大していく傾向が見られることもあげられていました。背景には、生活の利便化や環境・生活文化・ライフスタイルの変化、また日常的に体を動かす場所や機会の減少があるとのことですが、心身の発達が著しい小学校・中学校の時期に、規則正しい生活習慣と食習慣、運動する習慣を身に付けさせ、健康な体づくりの基礎を作りたいものです。

さて、本校の子どもたちに目を向けると……。今回は子どもたちの健康づくりに直接かかわっている養護教諭、栄養士から、子どもたちの様子や取り組みについて紹介いたします。本校児童生徒の健康・体に関する現状や課題については、第2回学校保健委員会等を経てお知らせいたします。

「多くの大人のかかわりで子どもの自立(自律)を育てたい」

養護教諭 菅野 幸枝

ある日の会話1(生徒)「先生、足痛い」(私)「あれっ?昨日も同じ症状で来てたよね」(生徒)「家にシップなかったんだもの」または(生徒)「親が忙しくて病院つれていってくれなかったんだもん」

ある日の会話2(私)「朝ごはん食べた?」(生徒)「食べてない」(私)「何で」(生徒)「(夜遅くまでおきて)食欲なかったから」

上記会話が何回となく保健室で展開されています。私はそのつど「もう高学年なので、シップを買いに行くとか病院は一人で行けるようにしましょう。」「朝食を食べないと、脳が働いてくれないから、ちょっとずつでも早く寝るようにして、朝ごはん食べてこようよ。」と言うのですが、なかなかすぐには出来るようになりません。

児童・生徒の育ちには個人差があります。成長がゆっくり目の子と早い子と。やはり、くりかえしの指導と、いろんな大人が関わっていくことで子どもは成長していきます。ご家庭・地域と連携して、生徒が自立(自律)するようにならばつよく関わっていきたいと思っています。

「先生、気持ちがいいです。」

養護教諭 高橋梨絵

毎日、保健室で子どもたちに接していると「気持ちが悪い」といって保健室を訪れる子どもがとて多いことに気がつきます。特に1学期は1日中保健室で誰かが休んでいるような状態も多くありました。「気持ちが悪い」という訴えを聞いたときに、最初に浮かぶのは「吐き気がする」ということだと思います。しかし、多くの子どもは「吐き気はしない」と言います。

「気持ちが悪い」という表現では、「吐き気がする」「調子が悪い」「気分が悪い」の3つの意味を考える必要があるようです。「調子が悪い」という状態は、はっきりした症状はなく、なんとなく気分がのらない状態と言えます。自律神経の乱れや心身症的な原因が考えられています。自律神経の乱れとは、起立性調節障害、脳貧血、立ちくらみなどとして現れます。これらは春から初夏にかけての発病が多いそうです。また心身症とは、こころの持続的な緊張やストレスによって生じると言われています。新しい学級でスタートを切った子どもたちにとって、新学期は緊張や不安が多く、ストレスを感じやすい状態にあるようです。保健室でも気分が晴れるような話題で話し相手になり、悩みを打ち明けやすい雰囲気作りをしていきたいと思っています。

給食指導の実践から・・・委員会活動をとおして

学校栄養職員 提箸 恵子

「給食委員会」の活動についてお知らせします。5年生以上の各学級から選ばれた給食委員は、毎日の給食時間におこなう「給食点検表」に沿っての、**給食点検**が主な仕事です。配膳された給食に異常がないか・給食当番は白衣やマスクを身につけているかなどの安全衛生の点検をおこない、衛生的に食べ物を扱うことの大切さを実感します。また、給食を食べた後は、あとかたづけや残菜の様子も確認し、「食べた感想」を記入することも委員の仕事です。給食の感想は、具体的に記入されているので、私にとって献立作成の大事な資料になります。児童生徒の嗜好に流されるのではなく、どのように食べさせたらいいかの指導資料として活用します。こちらに意図が伝わらないこともあります。生徒の感性に驚かされることもしばしばです。この記録は、調理師の意欲を高める役割もしてくれます。給食の時間に落ち着いて食事のできる学級は、学習活動も集中できます。 「給食の記録」は、日野中学校の時代から、20年近く書き続けられている給食を作る人たちと子どもたちのだいじな「架け橋」です。今後も、給食委員会の重要な仕事として続けていきたいと思えます。

「跳んで 走って 力をだして・・・」

運動会委員会委員長 楠 暁

10月10日土曜日に第4回運動会が行われます。1年生から4年生までが参加の秋季運動会となって今回で第二回目となります。4年生が最高学年としてリーダーシップをとり、応援団や全校演技などで中心となって活躍しています。

運動会スローガンの「心を合わせて 勝利をめざせ 宝物がまたひとつ」を合言葉に、1-4年の児童418名が、競技や演技の練習を一生懸命行っています。1年生は初めての運動会に向けて踊りの振り付けを元気いっぱい練習しています。2年生は去年よりも成長した姿を見せようと、かけっこの練習を頑張っています。3年生はみんながひとつの演技になるように、なわとびの練習に毎日取り組んでいます。4年生は模範として最高の演技ができるようにソーラン節を真剣に練習しています。

また競技や演技だけでなく、当日は7年生66人がボランティアとして運動会の成功のために活動してくれます。運動会当日は、小中学生が全力で頑張ります。大きな応援をよろしくお願いたします。

「学び」「考える」修学旅行

9年学年主任 巻山 香

8月27日から3日間、9年は修学旅行に出かけました。インフルエンザ感染防止のため延期になったため夏休み中の実施になったのですが、出発の朝、東京駅の集合場所に集まった中学生の多さには驚きました。夏の終わりの奈良・京都はどこに行っても修学旅行生ばかり。それぞれの学校が中学校生活最大の行事である修学旅行に際し、よい思い出を残そうと、目標をもち、準備をし、臨んでいるのあだなと思うと、しみじみした気持ちになりました。

今回の修学旅行では、団体行動においては集合も行動もよくできたと思います。7年の移動教室では集まるたびに怒られていたことを振り返ると、9年生の成長を感じることができました。また、今回の修学旅行の目的「学び」「考える」ことのまとめとして、旅行後に一人一人が卒論を作成しました。「楽しかった」だけで終わらず、各自の成長につながるのが宿泊行事の意義です。卒論は文化祭で展示しますので、多くの方に見ていただきたいと思っています。

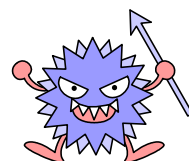


< 9月号に掲載できなかった「9年修学旅行」を今回掲載いたしました。 >

インフルエンザは細菌ではありません。ウィルスと呼ばれるもっと小さな粒子なのです。その大きさは非常に小さく、1mmの一万分の1程度のサイズで、もちろん、目には見えません。



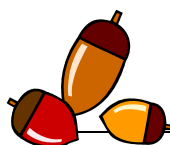
私たちヒトからすると細菌もウィルスもどちらも小さくて同じような感じがしますが、サイズはずいぶん違います。細菌なら理科室にある光学顕微鏡で何とかとらえることができます。細菌は細胞1個と同じ程度の大きさで、1mmの100分の1程度です。ウィルスと細菌を比較するとウィルスの方が100倍程度小さいのです。ちなみにウィルスは光学顕微鏡でも見えません。ウィルスをとらえるには電子顕微鏡が必要です。



細菌は1個の細胞です。それだけで生物として成り立っています。細胞はその中に遺伝子(DNAは遺伝子の一種です)を持っています。一方、ウィルスは細胞ではありません。リン酸やタンパク質という遺伝子を構成する物質だけで成り立っています。その意味は、生き物ではない、と言ってもいいぐらいです。

細菌は栄養を与えると増殖しますが、ウィルスはそれだけではダメで、宿主となる細胞が必要です。宿主の細胞の中に遺伝子として入り込んで、もともとそこにあった遺伝子を書き換え、自分自身を増やすようにし向けるのがウィルスの正体なのです。

インフルエンザの感染防止の第一は、自分のカラダを健康にしておくことです。細胞が元気であれば、ウィルスが入ってこようとしても、それを防ぐことができます。早寝早起き、栄養のバランスのとれた食事、適度な運動、当たり前のようなことが実は感染防止にはいちばんの策なのです。その上で、うがいや手洗いの励行をしましょう。



10月行事予定



月	火	水	木	金	土	日
			1 都民の日	2 常任委員会	3 雉子神社祭礼	4 雉子神社祭礼
5 東京寺子屋 7年	6 中間考査 7~9年 P運営委員会	7 特別時程	8 午前授業 7~9年	9	10 運動会 1~4年 学校公開始	11 運動会予備日
12 体育の日	13 運動会代休 1~4年 校外学習 5・6年	14 任命式 職員連絡会 ブロック会	15 避難訓練	16	17 土曜登校日 児童生徒会総会 学校説明会 学校公開終	18 校庭開放
19 校内研究会	20 連合体育大会 6年	21 進路説明会 9年	22 生活科見学 1年 陸上競技大会 6組	23	24 三野小運動会 (本校校庭会場)	25
26	27 連合音楽会	28	29	30 漢字検定	31 文化祭 5~9年	

